

## 平成28年度 第2回倉敷市地域公共交通会議 議事録

### 1. 会議名

平成28年度 第2回倉敷市地域公共交通会議

### 2. 開催日時

平成28年8月31日(水) 9時30分～11時00分

### 3. 開催場所

倉敷市男女共同参画推進センター 第2・3会議室

### 4. 出席者

#### (1) 委員(24名)

谷口守委員, 橋本成仁委員, 大野基和委員, 守安渉委員, 山下成久委員, 高田健委員, 横田直樹委員, 丹下恒夫委員, 羽原富夫委員, 石井繁次委員, (代)大瀧浩二委員, 山田英夫委員, 難波仁委員, 楠本雅之委員, 渡邊寛人委員, 加藤勇樹委員, 久本忠彦委員, 宮長勇作委員, 馬場俊一委員, (代)河本貴文委員, 谷口雄一郎委員, (代)國府啓士委員, 小野素宏委員, 岸本安正委員

#### (2) その他(17名)

関係者(4名), オブザーバー(3名), 事務局(8名), 傍聴者(2名)

### 5. 議事

#### (1) 協議事項

ア 倉敷市地域公共交通網形成計画について

#### (2) その他

### 6. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 会長挨拶
- (4) 議事
- (5) 閉会

### 7. 配布資料

次第, 委員名簿, 配席図

(事前配布資料) 倉敷市地域公共交通網形成計画

## 8. 議事内容

### (1) 開会（事務局）

本会議は、委員総数 25 名、代理出席含め出席者 24 名で、委員の半数以上の方にご出席いただいておりますので、倉敷市地域公共交通会議設置要綱第 8 条第 2 項の規程により会議は成立しています。

また、倉敷市地域公共交通会議の公開要領に基づき、本会議は公開で行われますが、本日の傍聴者は 2 名いらっしゃいますので、ご報告いたします。

### (2) 委員紹介（事務局）

委員、関係者、事務局の紹介

### (3) 会長挨拶

会長より挨拶

議長より挨拶

### (4) 議事における発言内容

#### ア 倉敷市地域公共交通網形成計画について

事務局：バイタルリードより説明（資料 倉敷市地域公共交通網形成計画）

議長：ありがとうございます。前回いいご意見をいただいていた、なるほどと思うことが多い。今回お示しいただいた 4 つ枠組みの中でそれぞれ流し込んで、整理していただいたと思う。

整理して意見をお聞きする。メインの資料の 9 ページまで今までどうだったかという内容である。交通網を考えるうえでは、しっかり公共交通で街をつくるということを継承していく必要がある。基本的なことはしっかり継承していこうという議論も前回あったと思う。ただ、修正した方がいいところは変えていくといった流れかと思う。その上で 10～12 ページが今日の議論のメインになる。この部分は今日の会議で確定して次回にもっていきたい。評価するうえで必要なことが 13 ページ以降になってくる。この部分にも意見をいただきたい。

最初は 12 ページまでで、意見をいただきたい。皆さん各組織の代表として来ていらっしゃるの、それぞれ貴重な情報を持っておられると思うが、ご存知の通り公共交通の予算が限られているので、それぞれの要望を出す場ではないと思っていただきたい。この場で話をしてそれぞれの組織にもって帰っていただいて、むしろそれぞれの組織を説得してもらいたい。そうしないと、全体の協力関係で、全体を良くしていくという姿勢でいてほしい。

たくさんの方から意見をいただきたいと思う。

委員：前回もだが今回もタクシーの目標値が掲載していない。今回はこれから議論されるか。コミュニティタクシーの倉敷方式が前回の目標値では、2 団体増加であったが、今の方式では無理ではないか？

- 事務局 : タクシーの目標値今は記載していない。基本方針の「暮」の中に「市民に愛される公共交通」などのところにタクシーも含まれると考えていただきたい。
- 委員 : タクシー会社はどうか？
- 委員 : 検討課題ということで方向性が見えていないので、答えることができない。決まってからと考えている。
- 議長 : 順番的には最初の 12 ページまでの基本的なところをまず合意いただいて、その中で見えてくるのではないかと考えている。
- 委員 : 私どもは新聞等の情報しかわからない。タクシーの議論がされている。いつまでに方針が決まるのか。どういう方向性でいくのか、この会議で決めるわけなので、タクシーがどういう風にしていくのかの意見が聞きたい。
- 委員 : まだ、これからである。
- 委員 : いつまでにするのか。
- 委員 : 昨年 8 月から 3 年間の指定がされている。いつまでというのは事業者と考えるといけないので、答えられない。
- 議長 : コミュニティタクシーはどうか。
- 事務局 : コミュニティタクシーは 2 件増えて達成された。今後は、コミュニティタクシーをどのようにしていくか、詳しくは今後検討していきたい。今の指標が実際になじんでいるか、今後考えていきたいと思っている。
- 委員 : 非常に大事な回答だと思う。住民に 1 割負担があるが、9 割が市で負担するので、一番財政力のない所に負担が来ている。その解決をするための会議が交通会議であると思っている。倉敷ではコミュニティが壊れており、住民組織が作れない。特に空白地域で問題がある。1 割負担というのは今後の問題であろう。住民組織は高齢者ばかりであるから、議論と調査を重ねて進める必要がある。2 団体は私の知る限りでは厳しいと思う。しっかり検討していきたい。それにはタクシーが大きな役割を占めると考えている。
- 議長 : ありがとうございます。他にあるか。理念はなかなか意見が出にくいと思うが。
- 委員 : 理念は、今までは交通のネットワークだけだったが、今回はまちづくりや観光とも関連させていくものである。他の地区と違って、倉敷のブランドをどうやって計画の中や、まちづくりに活かしていくのか、要するに倉敷の魅力をどうやって高めていくか、まちづくりと連携させていく時のポイントになっていくと考えている。そういった意味では、この理念でよいと思う。
- 議長 : ありがとうございます。どれを見て、どう議論すればいいのかわからないと思うが、10 ページから見るとなかなか議論が難しいと思う。基本方針の 12 ページの 4 つの色分けがいいかどうか。10 ページの内容を書き下すところといったことになるということである。12 ページの 4 つはこれでいいのかわかると意見があれば、今日意見を出してほしい。代表する漢字がこれで良いのかも考えたい。
- 委員 : 理念はすばらしい。理念倒れにならないように。

議長 : よろしいか。他に意見もないようなので承認とする。12 ページまでは原案どおりとさせていただきます。13 ページ以降で個別の意見もあろうかと思うので意見を頂戴したい。あと指標、横長 A3 の用紙に目標の数値があるので、ご覧頂いて、こちらは今日決めかねると思うので、意見をいただいて、次の会議に向けて固めていく。忌憚のない意見をいただきたい。

委員 : この会議は、私が何度も話しているが、利用者が非常に少ない、利用者のために 4 つの理念がある。公共交通の利用の仕方を工夫しなければならない。利用者を多くすることを第一に言いたい。資料にない。本気でやって成功しているところ、調べてみると、首長、議会が主導権をにぎり、条例を作っている。条例を作って専門委員会である委員会を開催する。ですので、まず大きな冠として、主催者である市長が本気になる必要がある。議会も議論する必要がある。これからどんどん時代が変化していくと、我々高齢者はついていけなくなる。議会で条例をつくり、その骨子は利用促進。高松市はうまくいっている。市民の責任、市の責任、行政の責任、会社の責任、それぞれの責任を項目に含めて利用促進を進めていくということを申し上げたい。もう一点は、議論に入る前の進め方である。利用者増に向けては、課題が多岐にわたるため、分科会が必要である。三点目は、6 ページの目標と今回の数値が異なる。前回の数値がダメなのかを明確にしていきたい。整合性が必要と思う。

議長 : 前回と今回の数値指標の違いはなにか。

事務局 : ご意見ありがとうございます。前回の数値指標の決定は詳しくわからないが、今回は今後モニタリングが容易な指標としたい。いつも進捗がわかる指標にしたい。

議長 : どんな計画も時がたつと変わる。現状としてマッチするものとしている。次回は、きちんと答えるようにしてほしい。進め方について他の委員さんからも意見をいただきたい。皆様一言ずつでもいいのでご意見いただきたい。

委員 : 今日、こちらの会場には車では来られないだろうと思い、市役所に車を停めてバスで来ようと思ったが、30 分待ちなので途中まで歩いた。網のところには、新たな路線などのイメージもあるかと思う。時間軸も必要だと思う。感覚として 10 分バスが遅れると、非常にいら立つだろうし、10 分に 1 本バスが来たら時間を気にせず迷わず公共交通を利用するだろうと思う。特に岡山～天満屋間は時間軸もそうだが、お金でもワンコインで行ける。たとえば倉敷もワンコインで美観地区に行けるなど議論してはどうか。魅力についてもワンコインで美観地区に行ければ、魅力があがる。倉敷駅の北口にはアリオのような大型ショッピングセンターもある、県外からそこに車をとめて、ワンコインで美観地区を散策するというのも理想的だと思う。岡山の天満屋が非常に賑やかな状況だったが、イオンができてその影響もあるかと思う。美術館や博物館や図書館へも、大型ショッピングセンターに車

を停めて足を延ばしていただくような、具体的な計画をしていただきたい。  
基本方針については、この4つに分かれていて良いと思う。そこを掘下げる  
意味でも時間軸とお金の問題を具体的にしていきたい。

委員 : 4つの基本方針はよくまとめられていると思う。前回の意見も反映されてい  
て良いと思う。

暮らしの中で、公共交通機関に満足している人の割合、妥当と思うが、アン  
ケートでは利用者の回答だと思うが、利用者を増やして分母を多くしていく。  
利用していない人にこそ不満があるのではないかと思う。利用者を増やし  
ていかなくは、基本方針の「持続可能な」ということに繋がっていかないと  
思う。

委員 : 老人クラブで聞いてみた。私は水島地区に住んでいる。水島地区の老人の意  
見で、高齢者や子供たち、身体障がい者が倉敷に向くには水島臨海鉄道の  
料金が安くないかという意見があった。私も山の上に住んでいる。サニ  
ータウンができたころは両備バスが通っていたが撤退した。しかし、高齢に  
なり免許を返上した方が多くなってきた。下まで降りるのに1km近く歩かな  
くはならず、帰りは上らないといけないので、非常に不便になってきた。  
コミュニティタクシーの導入を検討する必要があるという意見が出ている。  
コミュニティタクシーについても勉強していきたいと思っている。老人クラ  
ブも活動しているので、そういった場を通じて委員会の話をしながら意見を  
集約していきたい。次回の委員会には意見や要望を話したいと思う。今後と  
もよろしく願いたい。

委員 : 14ページ市街地の自動車流入の抑制が大事だと思う。他市ではバスを有効活  
用している。非常に安い料金で利用しているので、観光客も市民も便利にな  
ると思う。富山の方は先進的で新幹線が来て、その下を電車が走っていて、  
お金はかかっているが非常に考えられていると思う。倉敷はどういったこと  
がいいのかわからないが、私は自動車関係だからつらいのだが、美観地区の  
アイビススクエアの横の道は非常に混雑して、観光客の人が多いが駐車場が  
ない状況もあるので、うまく公共交通を利用してもらえるようにしていけれ  
ばいいと思う。

委員 : 観光団体ということで委員がおっしゃるように、公共交通形成網もきちんと  
するということが、公共交通をスムーズに運行することが重要だと思う。  
先ほども渋滞してなかなか進まないというお話もあった、観光客が思うのは  
公共交通がスムーズに運行していないということ。これが非常に困るのでレ  
ンタカーやマイカーに流れる要因である。JRの公共交通を利用するための企  
画切符を生かすために、スムーズに運行するというを入れる必要がある  
と思う。これからの観光地を掘下げるためには、新しい路線をつくることも  
必要だが、既存の路線をきちんと運転できるようにしてほしい。

委員 : 皆様のおっしゃるような、対策をしていけばバスの利用が増えていくのでは  
ないかと思う。ここに書いてあるように進めていただければと思う。渋滞対

策が必要である。目標については、わかりやすいもので対策が取りやすいものがいい。全国的にもバスの利用は減ってきているが、その原因を出すのは困難なので、わかりやすい指標になっているので参考になると思う。バス事業者も頑張ってもらいたいと思う。個人的にはこの基本方針でいいと思う。

議長 : 下げ止まっている街もある。松江などは下げ止まっている。

委員 : 個人的な意見として「魅力」で、天領祭りのとき北口で神楽をやっていたが、観光客の人は情報発信がなく知らない人が多かった。情報発信のやり方が重要である。情報発信が回遊につながっている。国内外からのお客様の「魅力」についてだが、岡山ではモモチャリが普及して通勤通学等で使われている。倉敷市に導入されていないのであれば、試行・普及を目指してはいいかだろうか。

委員 : 交通が都市の装置だとするならば、骨格を形成する公共交通は町づくりに関係するかもしれないが、観光はどこにいれるのか。それと合わせて考えなければならないのかと思う。目標指標に鉄道駅利用者数とあるが、駅によって状況が違う。駅により特性が違って、人口が増えているために定期の客が増えているところや、倉敷、児島のように定期以外の観光利用が増えているのではないかというところもある。それが意味するもの、目指すものを考える必要がある。指標をわかりやすく、とりやすくすると抽象的になるし、とりにくい指標になると課題が明確になる。まちづくりと観光のエッセンスをどういうふうに盛り込むかの検討が必要だと思う。

委員 : 14 ページ指標が水島臨海鉄道の利用者数になっているが。それだけでいいのかどうか。水島臨海鉄道では、平成 5 年から伸びていたが、その後減少している。今は微増である。指標を水島臨海鉄道だけでいいのかどうか考えてほしい。

議長 : 無理に右肩上がりにしなくてもいいのではないかという意見である。

委員 : 国土交通省の施策として、観光地の渋滞対策にしっかり取り組むということがある。人口が減る中でインバウンドは観光地が渋滞しては魅力がないだろうということで対策をしていこうと、倉敷、鳥取砂丘、出雲大社が候補になっている。データ解析等含めてしっかり支援するようにと考えている。今の美観地区周辺の渋滞を見る中で、南東部や駅前の方は地元車両も多いので、この 14.15 ページ施策はよいと思う。

3 点質問なのだが、一つ目は渋滞要因の認識。2 つ目は具体的にどういう検討をしているのか。3 つ目は倉敷市役所で駐車してから、美観地区まで無料バスを走らせる社会実験を行っていたと思うが、スマート通勤など既存施策と関係はどうするのか。具体的なところを教えてください。

議長 : 事務局の回答の前に、先生にコメントをいただきたい。

委員 : 今回の計画は、公共交通だけではなくてまちづくりとの連携が大事ということで、暮らしに関係する店舗や商業施設等との連携がない。どうやって使ってもらえるかが見えにくい。

もう一つが、この会議でできない部分でもあるが、倉敷の観光の弱点は、美観地区のみになってしまっていることである。市内でその次の観光地があれば、交通もより活性化していく。市内の観光で 300 万人きているけど、美観地区の次に行くところはないので、PR が足りないのか、素材がないのか、ないのであればそこからつくっていくのかを考えないといけない。駅から美観地区まですごく近くて公共交通も必要ない距離である。美観地区の次に行くところがあればすごくいいと思う。

指標の案のなかで魅力を感じている人や満足している人の満足度の指標がでているが、気持の部分は難しい。サービスレベルが上がれば、それが常識になって他の不満などが出てきて、満足度とサービス向上がつかない。そうではなくて、公共交通の使いやすさなどの指標はどうか。満足度に頼るとあとで大変になるように思うので工夫が必要だと私は思う。

議長 : 満足度はそのように自分も思う。公共交通のことをうまく抜き取れない可能性がある。指標を考える上で一緒に考えていただきたいと思う。

色々ご意見ご質問いただいたと思うが、事務局から回答をいただきたい。

事務局 : 目標値の設定は、今後委員の皆様と具体的に検討しながら、それに沿った指標を適切に考える。委員からの質問だが、渋滞情報の把握については、道路管理者等が把握していることもあるので追って相談していきたい。

無料バスやスマート通勤は、今までもやっているしこれからもやっていくので、計画に盛り込んでいくと考えられる。

分科会についてもこれから、事業者や利用者といろいろな話をさせていただく機会が、1・2 か月必要になると考えている。本日の会議が終わればこれから先が山場になるので、効率的な話ができるかを含めながら前回までの計画と整合性を保ちながら、そういったやり方がいいのか考えさせていただいて適宜連絡をとらせていただきたいと思っている。

利用者増加に関しては、今以上に事業者・利用者が役割分担を持って公共交通を観光とセットで考えていく。公共交通に関しては政策をしたら爆発的に利用が増えるようなものではないので、日頃の認識を持って継続していかなければならないと思っている。

事務局 : 委員からの質問の 1 点目と 2 点目に関して、市内の渋滞に関しては、交通なので県内広域ということで、全体的な容量、実際発生している箇所を把握している。市内の渋滞状況は曜日により異なる。構造的に美観地区周辺の幹線道路は、付加車線がないことも渋滞の一因であると考えている。渋滞状況については具体的に把握しているが、それら路線について付加車線が付けられないか、方向別でどのような渋滞対策ができるか検討している。次回には報告できるようにする。

議長 : 道路サイドでやっていくという話ですね。  
条例はどうか。

事務局 : 交通網形成計画を策定していく中で、全国的に地方の都市においては、人口

減少や少子高齢化ということで、今までのまちづくりではなく、多様なまちづくりが必要になり、立地適正化計画や交通網形成計画も進んでいる。その中で公共交通の条例の必要性について検討していく。

議長：高松市は、国が交通政策基本法を決める前につくっている。高松市が書かれていることは、個別の市でやるのではなく全国でやるようになっていく。交通政策基本法について国の文面自体を委員の皆さん読んで頂いて。金沢などおっしゃっている条例をつくっているところもある。当然、市長が変わると方針が変わることもあるので条例化して、ずっと継続していくことができる。今事務局がおっしゃっているように、立地適正化計画を作るために公共交通の議論をしていて、その流れの中で条例として行ったほうがいいと見えてくるものがあるれば、個人的にはいいと思う。そこを含めてご意見いただきたいと思う。

委員：財政のシミュレーション、空白エリアをどう埋めるかが重要である。進め方はお金があれば何でもできる。一番財政力のない末端の市町村に押し付けられているのだから、市の大体の財政シミュレーションはあるのか。前はシミュレーションが出ていたが、どのくらいのお金をかけるのか。

議長：お金はないのが前提である。高齢者や障がい者の方ももちろんお困りだろうが、子育て世代や若い人も困っているのだから、トータルで見ていく必要があると思っている。そこを含めて公募委員の方等広いご意見をいただいて、努めていこうと思っている。

## (2) その他

議長：その他何かあるか？

(委員の質問意見無し)

## (5) 閉会(事務局)

ありがとうございました。これをもちまして、平成28年度第2回倉敷市地域公共交通会議を終了します。

次回は11月22日午前で調整しており、詳細についてはまた後日ご連絡します。

議事録の内容に相違ないことを確認する。

平成28年9月12日

倉敷市地域公共交通会議 会長 岸 本 安 正